

がん闘病者きずな深める

がんの闘病者と支援者が一緒に歩く、中国地方初の「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009 in 広島」が22日、広島市中区の旧広島市民球場で始まった。23日午後1時まで夜を徹して続け、互いのきずなを深める。

開会式後は、患者会や支援組織など中国地方の約50団体約600人が一斉にスタート。1周約400メートルのグラウンドを「笑顔で前進」と書いて書いた幕を掲げて歩

旧球場を仲間と夜徹し行進



旧広島市民球場のグラウンドを歩くがん闘病者と支援者

いた。

その後、参加者は交代しながら周回を重ねていた。

7年前に大腸がんを患った竹原市の小野美代子さん(69)は「一緒に闘う仲間がいることを、悩んでいる人に伝えたい」と歩いていった。

夜は、外野席にろうそくを並べ「HOPE(希望)」の文字を浮かび上がらせた。県内の患者会や医療関係者でつくる実行委が主催。23日はステージで午前9時半からダンスや禁煙、がんまつわる講演などもある。(衣川圭)